

第3回富士見市いじめのない学校づくり委員会 会議録要旨

【日時】平成28年2月8日（月）14:00～16:30

【開催場所】富士見市教育委員会会議室

【出欠状況】

小林	大熊	塚田	瀬川	長堀
○	○	○	○	○

【事務局】

学校教育課長 指導主事

【次第】

1 開 会
2 教育委員会あいさつ
3 委員長あいさつ
4 議 題（協議事項）
(1) 報告事項
①平成27年度2学期富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
②各学校のいじめ防止基本方針について
③次年度に向けた取組について
④富士見市共通「学校生活アンケート」について
⑤教員の資質向上について
5 事務連絡
6 閉 会

【議事】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 議 題（協議事項）
 - (1) 報告事項
 - ①平成27年度2学期富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
 - ②各学校のいじめ防止基本方針について
 - ③次年度に向けた取組について
 - ④富士見市共通「学校生活アンケート」について
 - ⑤教員の資質向上について（1）報告事項

(平成27年度2学期富士見市立学校におけるいじめ等の状況について)

【委員】低学年の暴力行為が多いようだが、学校間格差はありますか。

【事務局】教員の意識の差により、認知の差があるのは事実です。また、ここ数年低学年で増加してきているのも事実です。特別支援教育の視点が不可欠です。

【委員】小学校高学年以上に見られる、教員への反抗などの暴力とは異なるのでしょうか。

【事務局】異なります。特別支援教育的配慮が必要なケースが多くあります。

【委員】そういう子どもへの対処の仕方を先生方が知らないのかもしれませんが。つらい思いをしている子どもたちに寄り添えていないのではないのでしょうか。指導要領が変わって教えなくてはならないことが増え、余裕がなくなっているのも一因ではないのでしょうか。小学校低学年に限って言うと、これはストレス反応だと思います。

【委員】小学校に比べると、中学校の方がいじめや暴力行為の認知件数が少ないようですが、その要因は何でしょうか。

【事務局】富士見市全体では中学校はここ数年落ち着いてきているのも事実です。ただし、潜在化するいじめに気付いていないことがないように注意していかねばと考えています。

【委員】70年代などの荒れた時代とは、今の子どもたちの状況は明らかに異なります。目に見えない「いじめ」や暴力行為に気付かなければいけないのでしょうか。川崎で中学生が殺害された事件は明らかにいじめだと考えています。学校に受け入れてもらえない子どもたちが集まってグループを作り、そこから抜けようとしてリンチになったのではないのでしょうか。外側にこぼれてしまった子たちをどこが見ているのでしょうか。行政サイドの責任もあるのではないのでしょうか。行政としてこの事件から学ぶことも多いのではないのでしょうか。

【事務局】不登校児童生徒の支援など、教育相談室が関わったり、学校の積極的な家庭訪問等で子ども・保護者に寄り添った支援をしていきたいと考えています。

【委員】低学年の反発は集団に適応できない子を押しえつけようとする対教師暴力に発展します。適切に関わるのが大切で、指導に従わないからと放置してしまうと、先生に無視されたということになってしまいます。これは、いじめの構造に似ていると思います。このことは、子ども同士のいじめにも発展するのではないのでしょうか。教員の子どもに対する理解不足もあるのではないのでしょうか。

【委員】小学校には低学年のプロのような先生がいてがんばってくれていますが、プライドみたいなものもあり、今の子どもたちの変化に対応できていない部分もあるのではないのでしょうか。今は軽度発達障害の子も増えてきて、対応が難しい。教員の指導力向上が求められていると思います。

【委員】対人暴力とは何ですか。

【事務局】文部科学省の調査では、学校外の人への暴力は「対人暴力」と定義してい

ます。

【委員】最近、低学年の担任は若い教員が増えているようですが。

【事務局】低学年に限らず、教員の世代交代が急激に進んでいます。若い教員だけで学年を組んでいるケースも多くあります。

【委員】小学校は高学年になると不登校が減少する傾向がある。力量のある教員が揃っているということがあるのではないのでしょうか。

【事務局】高学年に力量のある教員がいるのも事実だと思います。

【委員】教員のことを保護者はよくわかっています。教員の資質や学級経営の在り方、こだわりの強さにまで関心があります。

【委員】発達障害と思われていた子が、的確に関わったら、改善したという例が多くあります。関わり方の問題なのでしょう。

(各学校のいじめ防止基本方針について)

【委員】ホームページで公開していることはいいことです。ただし、立派なものなくても、必ずこれはやるということに絞ってもいいでしょう。

【委員】たとえば、「6月にアンケート調査をします」とありますが、そのあとでどのようにフォローするのかが見えません。アンケートの集計をその後はどうつなげるかを記さないといけません。職員会議を開き、どうアクションするのかという具体的な手立てを書くようにしましょう。

【事務局】小学校も中学校も月に一度は生徒指導委員会が開かれています。そのようなこともしっかりと明記するようにします。

【委員】会議はやっていると思いますが、そここのところを明記した方がいいと思います。やれないことは書かない、やっていることは書いた方がいいです。

【委員】無記名でアンケートをするならば、それを担任団がどうその後の指導に生かすのかが大切です。教育委員会で流れを作った方がいいかもしれません。早期発見のためというよりは、教員がクラスの実態を把握するために無記名で実施するというのを教員が理解し、指導・支援はアンケートとは別に考えていかなければなりません。

(学校生活アンケート案について)

【委員】「学校は楽しいですか」と聞くと学校の健全さを示します。

【委員】無記名で○を付けるだけで、把握につながるのでしょうか。

【事務局】あくまでも実態把握で、その後の二者面談などにつなげるつもりです。

【委員】同じものを一年に数回実施することで、変容が見られると思います。

【委員】人権擁護委員会で SOS ミニレターをやっていますが、小学校低学年は「ひやかし、からかい」より、「嫌なことを言われた」の方がわかりやすいのではないのでしょうか。

【事務局】ある学校では「いじめられた」を「嫌なことをされた」と記してアンケートをとったら、多くの件数があがったそうです。それも参考にしていきます。

【委員】 お金に関する質問がないようですが。お年玉等も持っているのですが、お金を取られた、おごらされたというような具体的なものがあるといいのではないのでしょうか。

【事務局】 それも入れる方向で考えます。

(次年度に向けた取組および教員の資質向上について)

【委員】 アンケートなどで実態がわかっても、頭ごなしに「いじめはいけません」と言っても無理があります。どうやってそのことをわからせていくかが大切です。

【委員】 いじめの認知件数を減らしたクラスの対応の良さを校内で広めていくことが大切ではないのでしょうか。教員の研究発表会などで広めることも大切です。特別活動などで友達と協力することを学んだり、他者が自分と違う気持ちを持っていて、それとどう付き合うかということ学ぶ機会を計画的に取り入れることが大切です。

【委員】 今の子どもたちは自分に自信を持たず、他者評価に頼ってしまうのではないのでしょうか。自分の良さを再発見し、自己肯定感を高める取組をしていくことが大切です。

【委員】 よくやっているクラスを校長先生に薦めてもらって、その取組を教育委員会が広めるといいのではないのでしょうか。

【委員】 以前、不登校解消事例集を作成したことがあります。長い文章ではなく、吹き出しなどでわかりやすくしました。

【事務局】 ポートフォリオなどに取り組んだり、学期に一度、思いやりのある行動を大々的に称賛する取組などを行っているクラスなどもあります。

【委員】 子どもたちの信頼関係構築のプログラムなどを継続して実施しているクラスなどは、QU などでも高い数値が出ます。

【委員】 自己肯定感が低い子は自分に自信がないので、ほかの子の視線が気になり、自分でいじめを呼び込む体質になってしまうのではないのでしょうか。だからこそ、自己肯定感を高める取組が大切なのです。

【事務局】 とくに小学校は若い先生も増えて、何もかもすべてやらなくてはならないと、多忙になってしまっています。これだけはやりましようかと焦点化していくことが大切なのではないでしょうか。

【委員】 自尊心を授業の中で高めることを推奨していくといいと思います。

【委員】 特別活動で自己肯定感を高めていけるとと思います。「自分キャッチコピーを作る」という取組があります。広告代理店と連携し、自分を売り込むキャッチコピーを作る活動なのですが、そこでは、ただ考えさせるだけではなく、言葉がけを多くして、自己肯定感を高めていきます。これは、いわゆる「良さ見つけ」だけではありません。それを具体的に表現し、発表していきます。形として発表して、みんなに「すごいね」と認めてもらってはじめて自信になり、自己肯定感が高まっていきます。

【委員】 生徒指導の先生や教育相談の先生などだけでなく、普通の教員に研修して

もらいたいです。

【事務局】 教員についてご意見等ございますか。

【委員】 謙虚に学ぶ姿勢を忘れ、経験の中で、わかっているつもりになっていることがあるのではないのでしょうか。

【委員】 若い先生は本を読まなくなったのではないのでしょうか。たとえば、昔は教室掲示すら本から学び真似したものです。また、塾のような授業になってはいないのでしょうか。黒板に線を引くとき、定規を使わない人もいます。

【委員】 オリジナルでなければいけないという強迫観念があるようです。良い授業を真似することは決して悪いことではないです。

【委員】 人権教育の観点からか、小学校は男女関係なく「さん」付けで呼ぶのに、中学校になると呼び捨てや、いきなり「お前」呼ばわりされることもあるようです。

【委員】 怒鳴られても呼び捨てにされても、日頃から自分は大切にされていると思える人間関係が成り立っているのであれば大丈夫ですが、その関係性がないと強迫的に聞こえます。

【委員】 最近は、事なかれ主義というか、自分に寄って来る子だけを見て、一人ひとりを見るという感じが少ない気がします。

【委員】 いじめのことなどは生徒指導や教育相談の先生などは研修をすでに多く積んでいます。他の先生方が教科の中でなど、どのように実践力を身に付けていくのが大切だと思います。

5 事務連絡

6 閉会（副委員長）